

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

131-415

事務事業名	農村女性活力増進事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)	
部等名	産業経済部	課等名	農業課		包含する細々目	1	6	1	3	19	1	750	
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり												
施策	12 人材育成と企業、人材誘導												
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要							
		事業期間	13	年度～	年度	関連計画 条例等							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	女性農業者	女性農業者(人)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			4381	4400		
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	自らの意志で、生きがいをもって農業経営及びその他の農業関連活動を行ってもらう。	農村・農業女性グループ数(グループ)	18目標	18	最終目標	
			18実績	19	19目標	20
			23目標	25	23実績	
		直売所会員数(人)	18目標	320	最終目標	
18実績			320	19目標	325	
23目標			330	23実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	女性農業者が自らの意志によって農業経営及びこれに関連する活動に参画できる環境を整備し、農業・農村における男女共同参画を推進する。	18年度の実績 ・女性農業者グループの活動支援 ・若い女性農業者対象講座(あぐり女学院) 10回 ・旬の加工塾(伝承人の育成) 7回 ・食ごよみ実践講座の新規開催 10回 ・いいだ・食の文化祭の開催 ・家族経営協定の締結推進	講座の回数(回) 家族協定締結数	60
			講座の回数(回) 家族協定締結数	60
	19年度計画 ・女性農業者グループの活動支援 ・若い女性農業者対象講座(あぐり女学院) 10回 ・旬の加工塾(伝承人の育成) 7回 ・食ごよみ実践講座の新規開催 10回 ・いいだ・食の文化祭の開催 ・家族経営協定の締結推進			

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	750	750
	事業費計(A)	750	750
人件費	正規職員所要時間	18年度 500	19年度 175
	臨時職員等所要時間	200	200
	人件費計(B)	2,003	841
	トータルコストA+B	2,753	1,591

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	企業立地、起業・就職する	新規就農者(人)	現状値	11	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	20
	Uターン者数(人)	現状値	91	19実績		
		20実績		21実績		
22実績			23目標		160	

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
農業の担い手の減少・高齢化等が進行している状況の中で、効率的かつ安定的な農業経営を担うべき人材の確保及び育成が重要な課題となっている。このため、地域の多様な担い手として農業・農村の維持・活性化に大きく貢献している女性の活動を推進する必要があった。	平成3年に開講したレディース・ファーム・カレッジも10年以上経過し、そこに参加した女性農業者の中から女性リーダーが多数育成され、現在も女性農業者のリーダーとして、様々な事業に積極的に取り組んでいる。	活動を契機として地域で幅広く活躍する仲間もでき、農産物や手作り品の販売にもつながった。人との出会いから何かが始まり、行動することで、確かな喜びが生まれることを実感した。(レディース・ファーム・カレッジ参加者の声) 社会に役立つ立派な職業は数多くあるが、「農業」は生きていく上で大切な知恵を学べる最適な職業の一だと思う。あぐり女学院でいつもの知恵を教えてもらって、これから何ができるかわからないが、私のこれからの道筋が少し見えたと感じている。(あぐり女学院卒業文集より)

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)	
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		女性農業者に特化した事業であり、対象の見直しは必要ない。	廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		女性農業者の農業経営・集落活動への主体的参加を促進する意図は妥当と考える。	他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		農村社会における男女共同参画の推進については、未だ市の関与が必要である。	成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)	

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	限られた経費でより効果的な事業が展開できるよう改善していく。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	現在行われている事業の内容を評価し、効果的でない事業を廃止する。また、より効果的な事業内容の検討をする。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由	
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？			

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	